

公益信託世田谷まちづくりファンド

第24回助成事業 審査講評

はじめの一步部門

<1-1 区の花「さぎ草」を愛する会>

- ・さぎ草は、大変人気があるようですが、この人気をうまく使って、地域の自然に興味を持ってもらう活動を続けていただければ。関連団体ともうまく連携してください。
- ・今回の企画の中心となっている「さぎ草」講習会は、地域内でのコミュニケーションを生み出すための仕掛けであり、世田谷ならではの自然や歴史を学ぶためのツールとして位置づけられています。単に世田谷固有の植物を育て愛でるという“個人的”活動にとどまらない、広範な展望を持った優れた活動企画だと思いました。この活動をきっかけとした、国分寺崖線や瀬田四丁目広場の認知度の向上と、地域でそれらを大切にしていこうという機運の強化を期待しています。

<1-2 下ノ谷縁日実行委員会>

- ・せたがや百景にもなっている場所であり、今後のリニューアルなどにつながるような、若い学生たちが関わる活動になることを期待します。かつて三世代遊び場マップの活動があったことなどの情報提供もあるとよいと思います。
- ・下ノ谷縁日は、2007年（イベント立ち上げ期）に私も参加したことがあります。商店の住宅化が進む中で、商店街としての記憶を新しい住民にも知ってもらい、体験してもらうための工夫が散りばめられたイベントだったと記憶しています。この活動が10年近く継続されてきたことに敬服いたします。そして、今回「はじめの一步部門」に応募されたのは継続が難しくなってきたことからということですので、来年以降も継続していく活動になっていただくことを見据え、まちづくりファンドの助成以外の資金の確保や、継続するための方策、体制などの検討も意識した活動につなげていただくことを期待します。

- ・審査会后、下ノ谷商店街を見に行きましたが、商店街の賑わいを取り戻すのはもう無理に思えました。商店街と町会の高齢化は日本全国で進んでいる問題です。しかし、学生など外部の若い人を巻き込んでいくというこの企画が継続できれば新しいコミュニティ形成の手法として大いに期待します。

< 1-3 認知症おうちカフェ★キリ会 >

- ・地域で認知症に取り組むこと、自宅を地域に開くこと。どちらも、これからの地域社会を育む貴重なアクションです。まずこうした一歩を踏み出された勇気に最大限の拍手をお送りします。ぜひこの1年、失敗を恐れず、仲間と一緒に様々なチャレンジをして、来年以降本当に大切にしたい方向性を見出してください。
- ・介護による生活への不安は他人事では無く、いつ当事者となるか分かりませんが、疲れた心と体のリフレッシュなど、理解しあい、支えあう場やネットワークづくりの実践として、認知症カフェや講座など、活動の輪が広まることを期待しています。
- ・認知症をかかえる家族の孤立化を防ぎ、認知症の介護を通して多くの人々が関わる地域コミュニティやネットワークを創り出すことは意義深い。また、予防活動や家族側に立った医療活動計画も評価できる。認知症の人や介護者が安心して過ごせる居場所の実現に期待したい。

< 1-4 あみ∞あむ >

- ・防災カフェという親しみやすい活動で、地域の防災意識を高め、いざというときに役に立つ顔の見えるコミュニティづくりというのはいいアイデアだと思います。多くの人に参加していただけるといいですね。
- ・防災まちづくりには大きく、行政が旗振り役となるものと、市民やNPOによるその創意工夫やネットワークに基づくものがあり、両者が補完し合って進められる必要があるでしょう。貴グループの活動は、後者の領域で具体的取り組みを行いつつ、前者について学び検証するなど、統合的かつ実践的な優れた取り組みだと思われます。カフェというスタイルや「あんしんポーチ」が、未だ防災に関心の薄い方々を日常的な地域関係の中に引き入れる有力なツールとなるよう期待しています。

<1-6 小径の灯実行委員会>

- ・「はじめの一步」といえる活動なのかどうか？いずれにしても小さな店の店主やお客様たち、はじめて参加する人たちをまき込んですすめてほしいと思います。下北沢らしいヒューマンスケールのまちのよさを多くの人と共有できる活動として期待しています。
- ・下北沢在住なので毎年楽しみにしています。火の管理のためお店の方が表に出ていて、キャンドルの灯を挟むと、普段利用しないお店の方とも会話がはずむのが楽しいです。このフェンドを機に、商店街などとも連携して「路地の街下北沢」の个性的なお店を支える「灯」としてクリスマスの恒例行事になってくれると嬉しいです。
- ・企画書を拝見してはじめて活動を知ったのですが、ホームページを拝見したところ、素敵なムービーで活動が紹介されており、活動の魅力や意義が良く伝わりました。キャンドルを界わいに配置することでまちの表情も変化し、まさに風景づくりの取組とも言えると思います。
自己資金の割合も大きく、はじめの一步部門に応募はされていますが、成熟した活動であると感じました。資金の集め方、活動のPRの仕方などのノウハウが、同じフェンド団体にも共有されるといいなと思います。

<1-7 ひよっこり兵庫島>

- ・水辺資源を生かした地域教育の試みは、どれだけあっても多すぎることはないでしょう。ぜひ、水辺デザインネットワーク本体の活動とは異なる軸の、場所、対象、方法を広げていってください。
- ・多摩川は身近な地域資源であり、レクリエーションの場として、市民が自分たちで、子どもと親が自然を感じ取りながら交流する仕組みづくりができるとよいと思っています。共感する親も多数いるとおもいますが、実施の周知やアンケート調査など、活動の展開を考えながらの提案に魅力を感じました。
- ・現代子は遊び方を知らない子が多い。自然のなかでの幼少期の遊び体験は人の感性を豊かにしたり、自然への畏敬の念を育てたりする。特に危険だと遠ざかりがちな河川での活動は子供らにとって貴重な体験となる。他のグループとの連携で、より活動が充実すると期待できる。